

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの生徒を大切に、豊かな人間性と確かな学力、課題解決能力を育み、地域との連携を推進しながら、地域で活躍するリーダーを輩出する学校

1. 確かな学力と課題解決能力（基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して自ら考え実践を通じて深く学び、表現する力）を育む学校
2. 豊かな人間性（自分だけでなく他者の大切さを認め、互いに助け合い、よりよい社会を創っていく責任感と規範意識を持ち、自立して社会を支える力）を育成する学校
3. 地域連携（地域とともに、「学び」、「歩み」、地域に貢献し、地域から信頼される）を推進する学校
4. 次世代リーダー（チャレンジ精神とリーダーシップ力を持ち、主体的・積極的に学校での諸活動やボランティア活動などの体験に取り組む）を育成する学校

2 中期的目標

1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成

(1) 新学習指導要領に基づいた生徒の「学ぶ力」を最大限に伸ばす教育課程の編成と授業の充実を図る。

- ア 主体的で対話的な深い学びの実現をめざす。
- イ 習熟度別授業、少人数授業、実習・体験型授業の効果的な運用を図る。
- ウ 生徒の主体的な「学び」へつながる授業研究と観点別評価を行い、授業の改善と充実を図る。
- エ 1人1台端末やICTを活用した授業内容の点検・改善を図る。
※授業アンケート（2回）の学校平均3.25（R2:3.23、R3:3.28、R4:3.24）をめざす。
- オ 教員が一人ひとりの生徒の「学び」を支援する時間を確保するための働き方改革を推進する。

2 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性をはぐくむ

(1) 規範意識醸成のため、あいさつ運動やマナー向上の全校的取組みを推進する。

- ア 家庭との連携のもと、全教員での遅刻指導に取り組む。
- イ 挨拶が飛び交う明るい校内環境の醸成に取り組む。
- ウ ルールやマナーを遵守し、モラルを高めるための「心の教育」の充実を図る。

(2) 生徒一人ひとりが安心して安全な学校づくりをめざす

- ア 教育相談体制を充実させるとともに、教職員と家庭が緊密な連携、情報共有を行う。
- イ 教員がカウンセリングマインドを持って生徒を支援し、生徒との信頼関係を築いた教育活動を行う。

(3) 豊かな人間性の形成に寄与する人権教育を展開する。

- ア 生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性をはぐくむとともに、人権が行き届いた安全で安心な学校の環境を醸成する。

※学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合84%以上（R2:76.7%、R3:83.1%、R4:85.6%）、「気軽に相談できる先生がいる」生徒の割合65%以上（R2:60.0%、R3:61.4%、R4:63.2%）、「人権について学ぶ機会がある」生徒の割合80%以上（R2:73.5%、R3:70.8%、R4:80.1%）をめざす。

3 「志」や「夢」をはぐくみ、自己実現の達成を図る

(1) 進路目標設定から進路実現まで3年間を見据えたキャリア教育を展開する。

- ア 生徒の進路実現に向けた進路指導體制を構築して、講習・補習などの手厚い学力支援体制を確立するとともに、キャリア教育の一環として英語検定、パソコン検定等の外部検定に生徒がチャレンジすることを一層促進する。
- イ 近隣大学（四天王寺大学・関西福祉科学大学等）や関係機関等との連携を通して、生徒が進路意識を高め、進路実現のための学習や体験ができる機会を確保する。

※進路決定者を97%以上（R2:94.5%、R3:95.1%、R4:96.3%）に増加させる。

4 地域と連携した魅力のある学校づくり

(1) 地域、学校教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。

- ア 広報活動を強化し、本校の魅力を広く周知するよう努める。
- イ PTAやNPO等と連携し、地域の福祉活動・環境保全活動に取り組む。
- ウ 地域の外部人材や施設を活用し、体験的な授業や講座を開催する。
- エ 生徒や教員が地域に出向いて積極的な交流を図る。

※学校教育自己診断における「大学の先生をはじめとして外部の先生から授業を受けたり話を聞く機会がある。」生徒の割合82%以上（R2:81.6%、R3:83.6%、R4:80.8%）をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>・「学びたいと思う系列・コースや選択授業がある」（生徒）80.3%（昨年71.0%）、「授業は分かりやすく楽しい」（生徒）73.9%（昨年70.6%）、「授業でわからないことを先生に質問しやすい」（生徒）76.2%（昨年66.2%）が増加した。授業ガイダンスと授業改善の取り組みをさらに進めたい。</p> <p>・「学習評価については理解できる」（生徒）87.6%（昨年85.4%）は増加。観点別評価について理解が得られているが、より精度の高い指導と評価の一体化に向けて協議と検討を重ねていきたい。</p> <p>・「年間の学習計画・授業内容などについて各教科での話し合いや意見交換する場がある」（教員）78.6%（昨年66.7%）、「評価のあり方について話し合う機会がある」（教員）80.6%（昨年61.5%）はともに大幅に増加。</p>	<p>第1回（7月14日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちを取り巻く環境にはSNSの発達などを始め様々なものがあり変化も激しいが、社会に出る準備を含めて、規範意識と基本的な生活習慣をしっかりと理解させながら指導を行うことが大切だ。 ・新型コロナウイルス感染症による教育活動の規制が緩和されつつある中、地域に根ざした学校として中学校や地域との交流活動を活性化させていくことも重要である。 ・今年度から配置されたSSWを活用しながら生徒支援の充実に努める取り組みをさらに進め、教育相談体制をより強固なものにしてもらいたい。 <p>第2回（11月17日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懐風館の生徒はパワーがあり、学校生活や行事において前向きに取り組み、達成感を感じている。こういう魅力ある部分を中学生や保護者に伝える広報が大切ではないか。

府立懐風館高等学校

<p>今後も教員間の連携を大切に効果的な学習指導に取り組みたい。</p> <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気軽に相談できる先生がいる」(生徒) 73.6% (昨年 63.2%)、「いじめについて困っていることがあれば先生は真剣に対応してくれる」(生徒) 83.6% (昨年 74.6%) はともに大幅に増加。教育相談と生徒指導の取り組みについて評価が高まり、生徒の学校への信頼感が増している。今後もこの状況を堅持していきたい。 ・「学校行事は楽しく行えるよう工夫されている」(生徒) 87.4% (昨年 83.0%)、「文化祭・体育祭・修学旅行・遠足等楽しく行えるように工夫されている」(保護者) 86.2% (昨年 77.9%) はともに増加。コロナによる規制が緩和され、コロナ前に近い状況で学校行事を復活させた。今後も学校やクラスへの帰属意識を高め、仲間との絆を深める大切な機会でもある学校行事の充実を図っていく。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教職員間の相互理解がなされ信頼関係に基づいて教育活動が行われている」(教員) 79.3% (昨年 63.2%)、「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」(教員) 71.4% (昨年 44.7%) とともに大幅に増加。一方で生徒情報の迅速な共有が必要という意見もあり、「チーム懐風館」として、今後も生徒をしっかりと支援していく体制づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業料等において公私の差がなくなり、綺麗な校舎や施設を見て早い時期に私学に決める中学生が増えており、ここ数年私学の専願率は高く推移している。懐風館高校も部活動の体験入部等の時期を早めてはどうか。 ・懐風館高校には他校にないいいところがたくさんあることを誇りにして、積極的に外部にアピールしてほしい。教職員の熱意と頑張りには生徒に必ず伝わるはず。今後も一人ひとりの生徒しっかりと育てる、今以上に「面倒見のいい」学校であるための取り組みを教職員一丸となって進めてもらいたい。 <p>第3回(2月16日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校経営計画における目標をほぼ達成していることは評価できる。 ・府内の中学校の卒業生数が年々減少し、私学や専修学校との競合が激しくなる中、入学者数を確保することが難しくなっている。特に、地元南河内地区の生徒数の減少が著しく、地域との繋がりをこれまで以上に大切にしたい取り組みを進めることが重要である。 ・次年度も生徒を育てる取り組みの充実を図るとともに、学校の魅力をより広く発信する広報の工夫に今後も取り組んでもらいたい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成	<p>(1) 基礎的な学力の定着と主体的で対話的な深い学びをめざした授業改善の取組を推進する。</p>	<p>(1) 教員の指導力の向上を図る。企画委員会、学ぶ力育成委員会が中心となり、アからエに組織的に取り組む</p> <p>ア 授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間2回の授業公開、全教科による研究授業の実施などにより、教員自らが積極的に授業改善に取り組む組織を構築する ・授業アンケートの実施とその分析及び課題解決に取り組む。 <p>イ 校内教職員研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用研修、進路指導研修、経験年数の少ない教員に対するOJTや経験の豊かな教員による研修の実施 <p>ウ 専門コースの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部機関と連携した体験学習やグループワークの工夫 ・専門コース科目「サービスマーケティング基礎・実践」など、専門コースの科目編成、内容の点検・改善 <p>エ 働き方改革の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のICT活用とともに、ICTを活用した校務の効率化を図る。 	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケートによる肯定的評価の向上 [2回平均 84.6%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「プロジェクターやプリントなど補助教材を活用したわかりやすい授業が多い」生徒の肯定率 90% [88.9%] ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」生徒の肯定率 72%[69.6%] ・学校教育自己診断「授業でわからないことを先生に質問しやすい」生徒の肯定率 67% [66.2%] <p>イ・校内研修の実施回数 8回[8回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」教員の肯定率 66% [65.8%] <p>ウ・学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」生徒の肯定率 72% [70.1%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「自分が学びたいと思う系列・コースや選択授業がある」生徒の肯定率 72% [71.0%] <p>エ・学校教育自己診断「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」教員の肯定率 88% [87.2%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「ICTを活用しながら校務の効率化を図っている」教員の割合 85%[84.2%] 	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケートによる肯定的評価 2回平均 82.6% (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「プロジェクターやプリントなど補助教材を活用したわかりやすい授業が多い」生徒の肯定率 91.8% (○) ・「授業はわかりやすい」生徒の肯定率 73.4% (○) ・「授業でわからないことを先生に質問しやすい」生徒の肯定率 76.2% (○) <p>◇ICTや補助教材を活用するなどわかりやすい授業をめざした取り組みの成果が出ている。今後も基礎的な学びと発展的な学びの双方に対応した生徒の満足度を高める授業力向上への取組を進めたい。</p> <p>イ・校内教職員研修は9回実施。(ICT 5、人権2、教育相談1、コンプライアンス1) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」教員の肯定率 80.0% (◎) <p>◇今年度は教員のニーズに応じた満足度が高い研修を実施することができた。(○)</p> <p>ウ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」生徒の肯定率 74.3% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分が学びたいと思う系列・コースや選択授業がある」生徒の肯定率 80.3% (○) <p>◇グループ学習やプレゼンテーションを取り入れた授業で学びの成果が現れている。系列・コースや授業の選択では、担任や学年の教員が生徒の進路を見据えた丁寧なガイダンスとアドバイスが評価されている。</p> <p>エ・「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」教員の肯定率 86.3% (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ICTを活用しながら校務の効率化を図っている」教員の割合 86.6% (○) <p>◇ICTの活用以外にも業務の効率化を進め、さらに働き方改革を推進していきたい。</p>

府立懐風館高等学校

<p>2 知・徳・体の調和のとれた教育をととし 豊かな人間性をはぐくむ</p>	<p>(1) 生徒一人ひとりに生き方あり方を探求させ、豊かなところと規範意識を醸成させる</p>	<p>(1) 規範意識の醸成 ア・あいさつの励行 イ・個に応じた遅刻指導、身だしなみ指導 ・毎朝の「おはよう運動」、年3回のあいさつ週間（各1週間）を実施。 ・遅刻生徒については、放課後の指導など、生徒指導部を中心に、組織的に指導する。 (2) 教育相談体制の充実 ア・隔週に教育相談委員会を開催し、生徒情報の共有化に努める。さらに学年団会議や職員会議等で全教員が情報を共有する。 イ・SCを活用するなど、教員の教育相談能力の向上を図る。 (3) あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する。 ア・「いじめへの対応」の学校信頼度を上げるとともに、外部人材を活用するなど「人権尊重の大切さについて学ぶ」機会を増やす。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「挨拶をする」生徒の肯定率 86%[85.6%] イ・生徒の年間遅刻総数の減少[4438] ・遅刻を減らすための取組みを進める。 (2) ア・学校教育自己診断「気軽に相談できる先生がいる」生徒の肯定率 64%[63.2%] イ・学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」生徒の肯定率 73% [72.1%] (3) ア・学校教育自己診断「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の肯定率 81% [80.1%]</p>	<p>(1) ア・「挨拶をする」生徒の肯定率 83.5% (△) イ・生徒の年間遅刻総数 [5684] (△) ◇基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上のための効果的な取組みが必要である。 (2) ア・「気軽に相談できる先生がいる」生徒の肯定率 73.6% (◎) イ・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」生徒の肯定率 79.6% (◎) ◇迅速なケース会議での情報共有やSC、SSWを効果的に活用しながらより丁寧な生徒支援が行えた。今後も、教育相談体制のさらなる強化をめざす。 (3) ア・人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の肯定率 85.5% (○) ◇今後も人権が行き届いた安全で安心な学校づくりを進めていきたい。</p>
<p>3 自己実現の達成を図る 「志」や「夢」をはぐくむ</p>	<p>(1) 自己（進路）実現に向けた進路指導の充実</p>	<p>(1) 生徒の進路意識の高揚や、自己（進路）実現の達成 ア・効果的な進路関係行事の実施 ・進路体験行事、懐風館セミナー（大学等の出前講義）等の実施 イ・補習や進学講習などの機会を充実させる ・教育産業とも連携しながら、生徒の希望進路の実現に向けた意識を高める。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断で「進路についての情報提供がされている」生徒の肯定率 84%[83.4%] イ・学校教育自己診断で「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合 30%[29.4%]</p>	<p>(1) ア・「進路についての情報提供がされている」生徒の肯定率 83.0% (△) イ・「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合 31.1% (○) ◇現行の進路関係行事で特に問題はないが、より進路意識が高まる内容となるよう工夫と取組みを進める。</p>
<p>4 地域と連携した魅力のある学校づくり</p>	<p>(1) 地域密着型高校として広報活動と学校の魅力の発信 (2) 地域と連携した取組みの推進</p>	<p>(1) 学校の様々な取組みを、中学生、保護者、中学校の教員に理解してもらう。 ア・中学校訪問や学校説明会、体験入学を充実させる。 イ・中・高の教員間の交流を推進する ウ・学校HPを通じた情報の発信 (2) ア・地域と連携した外部講師の活用や福祉ボランティア等の生徒が地域に出る体験活動を推進する。</p>	<p>(1) ア・中学校訪問回数や説明会等への参加者数の増加[311名] イ・教員研修や研究授業等を通じて中・高の教員間で交流を実施 ウ・校長ブログや部活動ブログ等を通じて日常的な学校の様子を発信 (2) ア・外部講師を招いての授業や地域清掃等の地域と連携した体験活動を実施。</p>	<p>(1) ア・中学校訪問回数は昨年より12回増加 学校説明会の参加者数 351名 (○) イ・教員研修や研究授業等で中学校の教員・校長延べ18人が来校し、情報交換と交流を図った。(○) ウ・校長ブログは8回、部活動ブログ等は7回昨年の発信数より増加。生徒・保護者の閲覧割合も12%向上。(○) (2) ア・地域清掃は5回実施。専門コースの授業で保育園、介護施設、支援学校との交流を行った。また、地元中学校への出前授業や介護施設から講師を招いての実習授業などを実施。(○) ◇文化祭が羽曳野市民文化祭へ参加して市民との交流を図るなど、地元との連携を深めることができた。今後は、羽曳野市以外の南河内の地域との交流と連携を広げていきたい。</p>